

【開催日時等】

- 1 開催日時：令和7年2月17日（月） 午後3時30分から午後4時45分
- 2 開催場所：長野市役所第一庁舎5階 庁議室
- 3 出席者：別紙名簿のとおり

【議事次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 協議事項
  - (1) 令和5年度連携事業の達成状況について
  - (2) 令和6年度連携事業の進捗状況について
  - (3) 第二期長野地域スクラムビジョンの改定について
  - (4) 第三期長野地域スクラムビジョンの策定方針（案）について
- 4 報告事項
  - (1) 長野地域における広域連携について（長野地域振興局）
- 5 意見交換
- 6 閉会

【議事要旨】

**2 挨拶（長野地域連携推進協議会会長 長野市 荻原市長）**

本日はお忙しい中、長野地域の市町村長の皆様に御出席いただき、長野地域連携推進協議会が開催できたことに厚く御礼を申し上げます。

さて、過日、総務省統計局が発表した、令和6年の47都道府県の人口移動報告によると、東京への転入超過が約7万9千人と最多であり、前年比1万1千人増とのことで、コロナ禍で一時緩和された東京一極集中が、再び進行している。また、長野県の発表による令和6年の県内年間人口増減数は、マイナス1万5千人であり、出生数も過去最少と、県内における人口減少と少子化も加速している。

こうした現状を受け止めつつ、あらためて長野地域の自治体が、より一層、連携し、魅力あふれる長野圏域を共に盛り上げ、地域特性を活かした効果的な取組を一体となって進めていく必要性が高まっていると感じている。

本日は、令和5年度と6年度の成果指標の報告、来年度に向けたスクラムビジョンの改定、そして令和8年度を開始年度とする次期スクラムビジョンの策定方針案について、御説明申し上げます。また、長野地域振興局様からは、長野地域における広域連携について御報告があると伺っている。

限られた時間ではあるが、長野圏域の更なる発展に向け、忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます、挨拶とする。

**3 協議事項**

- (1) 令和5年度連携事業の達成状況について  
事務局

## 資料 1 について説明

### 須坂市 三木市長

就職情報サイト「おしごとながの」活用等地域への就職支援事業について、先日「ナガノのシゴト博」へ立ち寄ったところ、非常に盛況で、参加者の半数が社会人であると聞いた。参加者が「ナガノのシゴト博」を知った機会や、参加した理由、加えて以前の参加者のうち、実際に長野地域へ就職した人数について、アンケートを取って知りたい。また、参加企業について、発表の質に差があるため、意見交換の場があるといいのではないか。

### 事務局

詳細については担当課へ確認し、後日共有させていただく。以前担当していた際の所感で申し上げますと、「ナガノのシゴト博」を知った機会としては、新聞に掲載した広告を見た親から勧められたという話をいくつか聞いている。参加理由については、地元に戻りたいという思いのある方が非常に多くいらしかった。実際に就職した人数についてはデータをとれていない。

### 須坂市 三木市長

新聞を見た親から勧めるというのも非常に重要だが、元々首都圏に居住している人にも情報が届くような仕組みづくりも重要だと考えている。また、首都圏に就職した後、地元に戻りたいと思ってもらえるということも重要だと考えている。

### 長野市 荻原市長

「ナガノのシゴト博」の業務委託先の事業者は、毎年同じ事業者なのか。同じ事業者が続いていれば様々な情報やデータが蓄積できるのではないか。

### 事務局

事業者は同じである。会場の変更等はあるものの、イベントのやり方やプレゼンの方法について、少しずつ改善しながら進めている。

### 須坂市 三木市長

長野県は社会増が多いということだが、実は外国人が社会増となっており、日本人は社会減となっている。県が転入や転出の理由等について全県的なアンケートを取ることで、長野県全体の課題が見えてくるのではないか。

### 長野地域振興局 坪井局長

「信州未来共創戦略」においても地域の強みを活かすことは重要としている。ご意見は本庁と共有してまいりたい。

## (2) 令和 6 年度連携事業の進捗状況について

### 事務局

資料 2 について説明

(質疑なし)

(3) 第二期長野地域スクラムビジョンの改定について

事務局

資料3-1、2、3について説明

(質疑なし、原案のとおり決定)

(4) 第三期長野地域スクラムビジョンの策定方針(案)について

事務局

資料4について説明

坂城町 山村町長

長野県でも県民会議で人口問題については議論しているが、第三期長野地域スクラムビジョンと長野県の人口戦略との整合性についてどのように進める予定か。

事務局

長野県の人口戦略については、長野地域連携推進協議会幹事会の中で長野地域振興局から説明いただいている。長野圏域の地域特性を活かし、広域で効果が出せるといった視点で、長野県と整合性も取りながら、第三期長野地域スクラムビジョンについて検討していく予定である。

坂城町 山村町長

長野県全土と長野地域の施策は異なるため、長野地域の課題を分析して、特色を出していくようにお願いしたい。

小布施町 大宮町長

長野地域連携中枢都市圏として、特に重要視する取組を決めてプロジェクト的に進める等、各取組の中でも濃淡があると良いのではないかと。

事務局

現行の第二期スクラムビジョンについては、戦略性や濃淡の弱さを課題として認識している。第三期長野地域スクラムビジョンの策定では連携市町村の皆様と議論できればと考えている。

坂城町 山村町長

長野地域に移住してきた方について、移住理由を聞いて、長野地域の魅力を紹介するのはどうか。

須坂市 三木市長

長野地域の良さは、住んでいる人よりも、外から来た人の方が分かっている。実際の移住者の生の声を発信することは、非常に良いと考えている。

小布施町 大宮町長

例えば長野市の人口が増えれば、小布施町にとっても、地域観光につながるため、圏域の人口を維持することは非常に重要である。そのためにも、東京方面へ移住促進等を実施する際に、長野地域をひとつのエリアとしてPRするための名前やイメージ作り等ができるといいのではないかな。また、圏域に住んでいる人は、圏域内の他市町村の施設等も利用しながら生活しているため、圏域内で互いに好きなところを紹介しあうことで、より連携が強くなるのではないかな。

須坂市 三木市長

外の人からは各市町村の違いはわかりにくいので、良い取組は各市町村ではなく、長野地域全体でやらなくてはいけない。「ナガノのシゴト博」では、「ながの」をカタカナで記載しており、初めて来た人は長野県のシゴト博と思っていた。住んでいる人は長野といえば長野地域であるとわかるが、東京の人は長野県と区別がしにくい。

#### **4 報告事項**

##### (1) 長野地域における広域連携について

長野地域振興局 坪井局長

長野地域振興局 資料について説明

坂城町 山村町長

先程の議論の続きになるが、長野地域がどの地域を指しているのかを県外の方等にわかってもらえるような表現を、例えば「ナガノナイン」など、長野地域振興局を中心に考えていただきたい。

長野地域振興局 坪井局長

北安曇を北アルプス、下伊那を南信州と呼称する例がある。長野地域についても皆様と意見交換をしながら一緒に考えてまいりたい。

小布施町 大宮町長

長野地域振興局の報告について確認だが、新たにプラットフォームが設立されるのか、会議をまとめることで効率化を図るものなのか。

長野地域振興局 坪井局長

各会議の幹事会はこれまでは別々に実施していたが、同時に合わせて開催するものである。長野地域連携推進協議会幹事会では長野地域振興局はオブザーバーの立場であったが、合同会議とすることでお互いに意見交換をしながら進めていきたい。

須坂市 三木市長

合同会議は長野地域振興局と長野市のどちらが主導で実施するのか。

長野地域振興局 坪井局長

長野地域振興局と長野市で連携して開催したい。

#### 須坂市 三木市長

長野地域振興局の資料にある、事務レベルでの情報共有は非常に重要なため、具体的に進めてもらいたい。また、職員の人材確保について、連携事業の職員人材確保事業として合同で採用試験を実施しているが、非常にありがたい。DX推進については、単独での実施が困難な場合もあり、切磋琢磨する意味でも、他市町村の職員と合同での実施は重要だと考えている。また、公共施設の共同利用についても是非進めていただきたい。小布施ハイウェイオアシスのようなものを須坂に作ってほしいという声もあり、自身の市町村に施設がないといけないという考え方があるが、お互いに使える施設は積極的に活用してもらいたい。

### **5 意見交換**

#### 小川村 染野村長

長野大町線のオリンピック道路が令和7年2月16日より無料開放となり、村民も大変喜んでいいる。小川村は小規模自治体であり、村独自ではできない事業や成果が出ない事業が連携事業の中には多くあり、大変ありがたい。人口減少や少子化問題は村発足以来の大変長期にわたる重要行政課題であるが、令和5年度は12名、令和3年度は22名の社会増となっている。これは、村や地域、村民も一生懸命取り組んでいるが、連携事業の成果でもあると考えている。58事業のうち、参加していない事業もあるが、協議しながら新たな事業についても参加していきたいと考えている。

#### 坂城町 山村町長

脱炭素化推進連携創出事業に関連して、令和4年2月に9市町村共同で2050年のゼロカーボン宣言をしているが、町の中でもテクノセンター、テクノハート、商工会が中心となり、2050年のゼロカーボン宣言をしている。令和7年2月4日にはテクノセンターのNearly ZEB化の工事が完了し、エネルギー消費の82%減を達成した。実施には約4億円かかっているが、2億数千万円が国の助成金、坂城町から約8,000万円、そして加盟企業の拠出金から7,000万円を出してもらい、Nearly ZEB化を達成した。

#### 高山村 藤沢村長

令和6年度から職員人材確保事業に参加しているが、社会人経験者枠で1名応募があり、結果1名を内定することができた。

#### 長野市 荻原市長

圏域内の人事交流を実施しているか。

#### 事務局

担当課ごとに打ち合わせや議論等は実施しているが、人事交流は実施していない。

以上